

**資料1** 教育実習後レポートと参考表

① 教育実習後レポートフォーマット

2016年度 「教育実習指導Ⅱ(教育実習指導)」

教育実習後レポート (湘南ひらつかキャンパス)

提出日：2016年6月24日(金) (6月27日以降の実習終了者の場合：実習終了後随時)

\_\_\_\_\_ (学部・研究科・科目等履修生) \_\_\_\_\_ (学科・専攻)  
学籍番号 \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_ 年次・氏名 \_\_\_\_\_

1. 教育実習について感想や意見を述べて下さい。『教職課程 履修カルテ』の「自己評価票」  
(4回目：教育実習について)とあわせて、記述してください。

① 教育実習を経験して気づいたこと

② 教員になるためにもっと力をつける必要があると思うこと

③ 実習前の準備として大切だと思うこと

④ 実習終了後、大学の担当教員に相談したいこと

2. 卒業後の進路について

① 教職志望の場合 (資格教育課程支援室に教員募集の依頼があった場合の連絡のために)

- ・ (公立、私立、どちらでも)
- ・ ( ) 都道府県・( ) 都道府県
- ・ (小学校・中学校・高等学校)
- ・ (専任・臨時任用教員・非常勤講師)

② 教職以外の場合。現時点で決まっていること、わかっている (考えている) こと

3. 2016年7月に受験する教員採用試験について

都道府県 (政令指定都市名)	学校種	教科	受験番号
	小・中・高		
	小・中・高		
	小・中・高		

4. 教職課程に対する要望やアイデアについて

注) 全ての項目を記入すること

## ②「教員になるためにもっと力をつける必要があると思うこと」

(資料1①の質問用紙 問1-②の回答, 湘南ひらつかキャンパスの教育実習生49名)

### ～国際経営学科～

**A** 傾聴力が必要と感じました。授業を行うための知識、生徒に話を伝える力もちろん大切ですが、実習中に感じたのが様々な諸連絡を頭に入れておくことが難しいということです。連絡用の黒板に書かれている連絡以外にも口頭のものもあるので、それを聞き、迅速にメモを取る力が必要だと思いました。

**B** 担当科目に対する関心。  
ただ、教科書の内容を教えるだけではなく、 $\alpha$ として身近な事を取りあげて時々問題等に絡めて教えていくということが大切。これは政治経済という科目の特異性だと感じます。

**C** ・生徒にとっては様々な教科のうちの1つにすぎない。前の授業から連続しているのは、先生の意識の中のことである。そのため、1つの授業の中で、生徒にも同様に連続している感覚を持たせる工夫を意識すること。  
・授業後も授業中と同じモチベーションを持たせ、自発的に質問したりできるような授業をする力。

**D** まず、専門知識をつけることが大前提となる。教材研究を行い専門知識をつけ、それを生徒にどう伝えるかが重要になってくるため、「生徒に考えさせる授業を行い、どう知識をつけさせるか」という指導方法を適当に使い分けることのできる力が必要であると感じた。教師がいくら知識を持っていても、生徒に上手く伝えることができないのならば、

意味はない。そのため、指導方法を使い分ける力は重要かつ必要である。

### ～数理・物理学科～

**A** ・生徒指導の力  
・授業力  
・要領のよさ  
・人を引き込む力  
・指導力

**B** 授業でねらいをいかに生徒に伝えるか、といったことを日々考え、流れをどう組み立てるかという思考力

**C** 生徒自身が考えるような時間を確保することです。考える時間を作ったつもりでしたが、まだ時間がたりないなどの指摘を受けたからです。また、グループ活動での時間配分です。多過ぎれば授業が崩壊し、少な過ぎれば考えを生み出せないからです。興味をもたせるように色づかいや画用紙を工夫し、生徒の視覚も大切にしたい。

**D** グループ活動を行う時に、どう指示出しをするのか、どんな時にグループを作るのかをその内容に合わせて判断できる力。

**E** 担当科目の専門性。問題を解く力という意味でなく、なぜそうなるかを理解している必要がある。公式1つをとっても、より細かく本質から理解すること。

**F** 教材や担当クラスに対しての探求心を常に持つように、日頃から教材・専門知識の量を増やすこと。他にも、授業や生徒指導をする上で、生徒とのコミュニケーションをとるための話題を多く持つこと。授業においては、これに加えて、どんな生徒へも「分かる授業」ができるよう、教え方の幅を広げること。

**G** 授業力はもちろん必要ですが、先生方は私より授業をやりつつもそれ以外の仕事もこなしていたので、単純に仕事を整理し進める力が必要だと思います。

他教科に対しての知識もあった方が、授業をおもしろくできるのではないかと思います。

**H** 生徒との距離の縮め方

⇒日頃から周囲に関心を持ち、朝や帰りのSHRなどで連絡事項以外に何か話を盛り込むなどして、クラス全体の良い雰囲気作りに努める。

**I** ・授業の構成力

教科書通りだけではなく、工夫をして授業をしないと生徒が飽きてしまう。

・視野の広さ

教室全体を見渡せないと授業及び学級経営が困難。

**J** ・生徒を指導するための方法

(全ての生徒に同じ方法で指導するのではなく様々なアプローチを身に付ける)

・生徒を評価し、成績をつけるということがしっかりとできるようになるための知識と教養を身に付ける

・様々な授業の方法を知ること

**K** 生徒に対して語りかけられる力と分かりやすい授業作り、発問の仕方、説明の仕方の向上。

**L** メリハリのある授業をする。1時間の中で生徒に落とし込むポイントを明確にして、授業に臨むこと。生徒を引きつける話す力。授業中の生徒とのやりとりを楽しむ力。予想とちがった生徒の反応が返ってきたときに対応できる力。

**M** 教師としての、社会人としての、大人としての人間力。現在、求められている「アクティブ・ラーニング」をするための授業力。生涯、教師として勤めていく上での、精神力。

**N** 1番は知識です。100%のことを知識で知っていたら、それ以上のことをもっと知っておく、また、つながりも知っていくこと。例えば、集合はいつできたか等、生徒に豆知識が言えるレベルまでもってくること。

次に生徒とのコミュニケーションの取り方。私はボランティア等でいつも生徒を相手にしていたので困らなかったのですが、他の実習生はどうコミュニケーションを取って良いか、だいぶ困っていました。

**O** 考える力

→実際に授業をしているとき、一度教えても私の教え方が悪いのか「先生！」とたくさん質問の挙手がありました。教科指導の先生が手助けしてくれましたが、実際は1人なので、教え方をもっと工夫しなければいけないと感じました。

### ～情報科学科～

**A** ・生徒へ伝える力

(説明力、声の抑揚 スピード)

・授業内での対応力

用意していたとしても、予想外の返答が多いため、その時いかに落ちついて対応できるかが大事だと感じました。

**B** ・大きな声で話すこと(授業中は特に大切) 声が届かないと意味が無い。

・伝える能力ではなく、伝えようとする気持ち。具体的には生徒の方を見ながら話す。生徒の反応を見ながら進めていく。

**C** 授業中や、ホームルーム中に何が起こるか

わからない中で、焦らずに対応できるよう余裕を持つためにも、柔軟な思考と臨機応変な対応力を身につけなければならないと思った。

**D** 授業力に尽きると思います。

板書の見やすさ、強調の仕方、生徒一人一人のレベルに合わせた発問内容等。

～化学科～

**A** 黒板の書き方、使い方やプリント作りの工夫といった技術と、生徒に説明する際の多様な表現、例えの引き出しを増やすこと。

**B** 知識をつけること。知識が多くあれば生徒の意見もひろえて、それを広げることでき、生徒も質問しやすくなる。また、理科の現象についての関連がある話ができるため、興味をもたせることができる。

板書は、授業が終わった後にその授業のことを振り返ることができるような板書ができると良い。

**C** 私は高校教師を目指しているので、“化学の専門知識”と生徒の進路指導をするうえで“様々な経験”の2つの力をつける必要があると思いました。実際にこの2つの知識をつけるために、本を読むこと、たくさんの人と話すことをしています。

**D** 1つ目は、コミュニケーション能力です。生徒となるべく多く会話するために、生徒がはなしやすい話題をふる必要があると感じました。

2つ目は、知識を伝える技術です。授業を分かりやすくするためには自分のもっている知識を分かりやすく、生徒が興味をもてるように伝える必要があると思いました。

**E** まずは専門知識を増やすこと。ただ覚える

だけでなく、なぜそうなるのか生徒に伝えられるための知識も必要であると感じた。あとは、生徒を叱るときにどう指導するのかということや、あらゆる生徒に対応できる応用力も必要である。その力を身につけた上で自分らしい、自分にしかできない指導をしていきたい。

**F** ・生徒の自主性を育てる指導方法

・理科に興味の無い生徒への授業方法

**G** 生徒にいかに関心をもってもらおうか、そのための授業の進め方や話し方。

**H** 板書能力の向上とコミュニケーション能力です。板書練習をするときは、自分でも納得のいくように書いていましたが、授業になると思うように書けませんでした。喋りながら書くというのが結構難しいので訓練しないといけないと思いました。コミュニケーション能力については、自分から様々なことを発信できるように、自分の教養を深めないといけないと思いました。

**I** ただ楽しい授業をやるだけでは効果が薄く、せっかく準備した授業も、もったいない形で終わってしまう。楽しい授業を効果的に行うには、導入で生徒の興味をいかに惹きつけられるかが大事になってくる。今日やるテーマの何が楽しいのか、これを理解するとどんな楽しいことを知ることができるのかそれを明確に示すと、生徒は授業の内容が楽しみになってくる。今回の実習で1度だけ導入が上手くいったことがあったが、その時は鳥肌が立つくらい生徒の視線を感じる事が出来た。

しかし、ほとんどの授業ではイマイチだったので、導入で生徒を惹きつけることを今後の目標にしたい。

- J** ・板書…見やすく 見返しやすく わかりやすく適量。正しい文章でかけているかの確認の必要もある。まだまだ練習する必要がある。
- ・レポート・ワークシート (生徒用) …生徒のためのスペースを考えてつくる。
- K** 知識量が極めて少ないことが分かりました。100の知識だけでは生徒には教えられない。200, 300, 400の知識が必要なことが分かりました。
- L** ・授業力の向上  
科学と教育の知識を身に付け、それを活かす技術を身に付けること。  
何よりも生徒に適した授業をするため生徒理解も必要です。
- ・広い視野と様々な経験  
大人として、社会人として、魅力的になり、生徒から信頼される「人」になること。

### ～生物科学科～

- A** ・指示や説明を後からなるべく追加しないようにする授業の段取り
- ・おもしろみがあり、かつ分かりやすい授業にするための知識や技術
- ・褒める・叱る・和ます話のタイミングやその内容などの話術
- B** ①学習課題設定までの生徒の思考の流れを大切にすること  
②教材研究の充実  
③授業にメリハリをつける必要性  
上記3点はまだまだ力不足であり、伸ばさねばならない点である。そのほかに、生徒に対する接し方について努力が必要である。生徒の良い所を見つけ、こまめに褒めることも大切なので、そういった点で観察力を磨く必

要もある。

**C** 授業を展開していく中で、生徒が「なぜだろう」という疑いを持った上で学習を始められるような問いかけを、もっと自分の中で見定めていく必要があると感じた。理科を学ぶ意欲は、些細な疑問から湧いてくるものだと思うので、ただ実験・授業を進めるのではなく、常に新しい疑問を生徒に投げかけ、授業を進める力をつけたい。

- D** ・授業の深み  
(なぜこれを学ぶのかの説明など)
- ・担任としての目線

**E** 子どもたちの思考や行動を予想する力が必要だと思いました。授業を行うに当たり、「どのような発問をすればどのような答えが返ってくるのか」を考えること、一つの行動、特に実験準備にかかる時間を想定しておくことがとても大切だと知ることができました。しかし私はこれらが足りず、思わぬ方向に話が進んだり、予定の半分の内容しか終わらなかったりしたことがあり、勉強が必要だと感じました。

**F** 一番の課題は、声に抑揚をつけて波のある授業をすることであると指導を頂いた。生徒が退屈にならないように様々な工夫を凝らして授業を行うべきだと感じた。

**G** まずは、教科(生物)の知識をもっと身に付ける必要がある。また、その知識をどのように生徒たちへと伝えるか。その伝えた方をもっとたくさん知らなくてはいけないと思った。

**H** 自分に必要な力はたくさん見つけましたが、その中でこの教育実習においてもっとも痛感したことが知識の少なさです。教科書の

内容を生徒に理解してもらうためには、教員はそれ以上の知識や身のまわりの活用・応用例を知っていなければなりません。自分の知識が少ないばかりに生徒が十分理解しにくい説明になりがちでしたので、知識を増やしていきたいです。加えて、羅列するようですが、集団をまとめあげる力、生徒の反応を予想する力などが必要だと思いました。

- I
- ・生徒に教科書の内容を教えるために、さらに深くその内容を理解し、知識をつけること。
  - ・臨機応変に動ける力をつけること。
  - ・生徒とコミュニケーションをとる能力をもっとつけること。
  - ・語彙力をもっとつけること。

J 授業力をもっともっと必要だと感じた。特に2つの力をつける必要があると思った。1つ目は、知識不足である。まだまだ知識が足りず、生徒を引きつける話や身近なことと結びつけることができていなかった。2つ目は、生徒の思考の誘導である。生徒の考えを深めるような発問ができるよう学んでいきたい。

K 知識・指導力・会話力・柔軟さ・公平さ・厳格さ

上記の通り、より上手く彼らの興味を誘導したい。また、興味のない生徒に対しての対策として、彼らの趣味や興味のあるものを知る力が必要（情報収集能力）。また、一部の生徒に対しては、教師が指示してやらせてみて、そこから疑問を作ってもいいかもしれない。

- L
- ・教科だけでなく、生徒指導力をつけること
  - ・あらゆる場面における対応力  
(学校生活では、予想もしないような出来事が多く生じるため、その場にあった

適切な対応が求められる。)

- ・生徒と信頼関係を築くためのコミュニケーション能力  
(信頼関係を築くことで授業をしっかりとときいてくれるようになる。)  
(生徒とだけでなく共に働く方々とも)
- ・教育に対する情熱、積極性

③「実習前の準備として大切だと思うこと」

(資料1①の質問用紙 問1-③の回答, 湘南  
ひらつかキャンパスの教育実習生49名)

- ・面白い話など小ネタの準備
- ・人前に立つ経験しておく
- ・教材研究

～国際経営学科～

**A** 教材研究に尽きると思います。授業を行ってみると必ず勉強の足りなさを感じていました。いくら準備をしても、毎回感じていたので、もっともっと実習前にも授業準備をして、余裕を持った上で実習を迎えたかったです。

**B** 教材研究。

教科書の内容+αとして、十分な教材研究をしていかなければ、事実のみを教えて終わる授業になってしまうということ。知識がなければ、目的が設定しづらくなってしまい、単調な授業になってしまう。

**C** ・自分の中で限界を作らず、授業の始まる数分前まで準備をし続けることと、その中で、自分の限界を知ること。  
・自分の中で、何をどうしていくか軸を決めておくこと。

**D** 実習で行う授業範囲の教材研究を行うことが重要だと感じた。自分が実習中に何回授業を行うのか、どの学年でどの範囲をやるのかを事前に聞き、教材研究を行うと生徒により良い授業をすることができるだろう。ワークシートやパワーポイントの作成、授業内容に沿った資料を集めることも、授業の質を上げるコツだと感じた。「教科書を使って教える授業」を意識しながら教材研究を行うと良い。

～数理・物理学科～

**A** ・板書案の作成

- ・指導案の大まかな流れを作っておく

**B** とりあえず、思いつく事なんでも。自分がどれだけ無駄な事をしたか、また、良い事をしたかが身にしみる。

**C** 教科指導の先生がどんな授業をしたか、今までどのように教えてきたかなど少し確認できた方がいいと思うので、生徒にさらっとノートを見せてもらい、復習してから授業を計画した方が良い。あとは、気持ち、やる気、メンタル。

**D** ・可能なら、指導案のテンプレートをもらい、できる範囲で作成しておくこと。  
・教材研究及び作成は入念に行うこと。  
→実習中に生徒とより深く関わるため。

**E** 事前準備。(特に板書計画など教科指導に関わるもの)  
実習中は、子どもたちと関わる時間を増したほうがよいと思うため。

**F** 担当する単元のイメージを膨らませることだと感じた。その上で、教材として扱う教科書を熟読することが重要だと感じた。教材書とは異なる例題を用いるとしても、教科書の意図を汲みとるようにすることで、イメージを膨らませやすくなると思った。

**G** 学校ボランティアや塾のアルバイトでも良いので中・高生に関わり、慣れておく動きやすいと思いました。教科の勉強はもちろん板書案等を準備することも必要ですが、逆に準備しすぎてそれがそのまま生かせないこともあると思います。

**H** 自分の担当する学年、授業内容などの把



握。内容が分かっているなら、ある程度教材研究も進めて授業のイメージを作っておくと良い。

- I
  - ・3年次…実習校種の教科の学習を進める。
  - ・実習直前…研究授業の内容又は、担当学年、指導内容が把握できている場合は、指導案や板書計画を出来るだけ作成しておく。
- J 授業を見学させていただきから板書計画（できれば指導案も）を作っておく（事前に授業の範囲を聞いておく）。
- K 特に何も必要ないと思うが、やる気と積極性は、あった方が良い。
- L しっかりあいさつができるようにすること。空気を読んでいくこと。教科書の問題を一通り解くこと。（実習前と実習中にやる所）担当学年が過去（1年前、2年前）に習う所、将来（実習後）に習う所を把握し、実習中に教える所との関係性を知ること。
- M 実習校で行っていた公開授業を見学しておくべきだった。担当する授業の範囲の学習指導案を全て作成しておくこと。
- N 予習。できれば、そこを模擬授業してみても良いかもしれません。後は一番大切なのは、体力の温存だと思います。
- O 教材の準備もちろん大切ですが、各クラスで誰が数学が好き・得意で、誰が数学が苦手・嫌いかという把握が必要だと思いました。HRクラスはもちろん、教えるクラスにも「自己紹介カード」があった方がいいと思いました。

### ～情報科学科～

- A
  - ・生徒とどのようにコミュニケーションをとるかを考えていた方がいい。
  - ・授業を考える上で、その授業で一番何を伝えたいかを先に考え、逆算して組み立てると分かりやすくなる。
  - ・発問の内容を練る（タイミングなども）。
- B 教材研究  
（教科書通りではなく書いていないことも扱うことが大切。また数学では様々な解法も紹介した方が良い）

C 自分が授業を担当する部分について、教科書に載っている内容だけでなく、それに関するより専門的な内容も勉強しておくこと、実際に授業をしている中で出る、生徒からの思いがけない質問にも対応しやすいと思った。

- D
  - ・学校ボランティア等で子供達と触れ合っておくこと
  - ・指導案を事前に作っておくこと
  - ・できれば大人数の前で話すことに慣れておくこと

### ～化学科～

- A
  - ・人前で話す練習
  - ・自分のアピールポイントの模索
- B
  - ・人前で話すことに慣れておく。
  - ・教材研究や、理科というネタさがしも大事。
- C
  - ・実習校と連絡をとり、授業範囲などを聞き、教材研究や授業準備を進めておくこと。
  - ・もし可能であれば、授業参観をさせてもらっておくと、クラスの雰囲気などを掴

むことができる。

**D** ある程度、授業ができる用意をしていくことが大切だと思います。少なくとも教科書を読み込み、板書計画を作っておくことが必要だと感じました。

**E** ボランティアや塾などのバイトを通じて日ごろから中学生・高校生と接すること。生徒が何を考え、何を思っているのかわかれば会話の内容や話し方などが決まるので、スムーズに生徒と仲良くなれます。

**F** 自分が担当する所の板書案又はプリントを作成しておくとお実習が始まってから焦らないで済む。

**G** 授業の指導案作りと教材研究

**H** 教科に対する知識量だと思います。問題を解けるのはあたり前でなぜそうなるのかという原理の部分をもっと研究するべきだったと思いました。授業で教える時には概要しか話しません、その法則や用語の理屈、歴史的背景など様々な知識が必要だと思います。自分の教養を深めるために少しでも疑問に思ったことは調べるべきだと思います。(日頃から)

**I** 一番大事なのはその授業の何が楽しいのかを自分で知ること。そして、その魅力を中学生に伝えられるようにしっかりと理解することだ。自分が楽しいと思わなければ生徒も楽しいとは思ってくれない。そのために、自分がこれで大丈夫と思う10倍の教材研究をし、日常生活、中学生の日常にある理科とリンクさせて授業を作っていく。

また、自分は導入が苦手なので、今日のテーマの何が楽しいのかなどの、明確な目的の提示、あるいは、明確な操作手順を提示す

ることを大切にしたい。

**J** 板書計画を立てておくこと。目標と発問計画も合わせて用意。行事前には特別日課の45分授業の可能性もあるので確認すること。自己紹介の内容と質問されるであろう事への応えを考えておくこと。

**K** 指導案の準備が重要だと思います。また、教科書以上の知識が必要ですが、さらにその知識を高校生のレベルまで落とすことが必要なので、その準備が必要だと思います。

**L** ・指導教諭と相談してから教材研究をすること。範囲、学習目標、先生の授業スタイル、生徒の様子 etc.  
・教育実習の目的・目標を自分の中にしかり落とし込むこと。より有意義な3週間を過ごすためにこれは必要。

### ～生物科学科～

**A** ・実習中に使いそうな物の準備。(ポロシャツ・ジャージ・授業で使う画用紙やマグネットなど…)  
・体調管理。(朝寝朝起きなど、生活習慣を正すこと)

**B** 指導案の時点で、細かく授業設計をすることがまず1つ。それから、教材研究を十分にしておくことが大切である。生徒の思考の流れや課題設定についてよく考えて展開をつくり、授業に飽きさせないよう工夫が必要である。

**C** 生徒に何かを教える際には、その範囲の知識だけを身に付けていればよいというわけではないのだと痛感した。誰かにある内容のことを教えるには、そこからさらに深い部分を予備知識として持っていることで、授業で話

す内容にも、より深みが増していくのだと感じた。そのため、使用教科書だけでなく、参考書や図説も用いて、下調べをすることが重要だと思う。

**D** ・オリエンテーション後のノート作り

- ・ノートを作って、早めに指導案を作成すること

**E** 実習先の学校が「何を大切に」「どのような授業を行っているのか」をきちんと考えることが大切だと思います。教材研究と授業の進行案を考えることは当然ですが、自分がやろうとしている授業がその学校の子どもたちに合っているのか、という考えが不足していたと感じています。学校自体や、その子どもたちについても充分なリサーチをすべきでした。

**F** 教材研究が一番大切であると感じた。参考書をたくさん読み、わかりやすい表現を探して自分なりの表現にまとめて板書案を作成することで、それなりの授業（最低限の授業）ができ、これに指導教諭からのアドバイスを参考にすることでよりよい授業ができると感じた。

**G** あらかじめ、自分が担当する教科の内容について教材研究を進めておくことは大切。また、指導案も作成しておくとなお良い。

**H** 知識不足を痛感したので、教材研究を第一にやるべきだと思います。だいたいの範囲は分かると思うので、授業でどう中学生に説明するかを考えながら行うとよいと思います。また、ここで学校の学習に対する教育方針を調べておけば、それに則った教材研究ができ、実習がスムーズになると思います。

**I** 教える内容よりもさらに深く内容を理解

し、知識を事前に身につけておくこと。実験を行う場合は、事前に予備実験を行うこと。模型やプリントを使用する場合は授業内でのように活用していくのかをしっかりと考えて作ること。

**J** 学習指導案は分かる範囲で作っておいた方が良かった。また授業の構成については、自分で考えて、アレンジできるといいと思った。

**K** クラス観は非常に大切。（雰囲気）全く違うクラスに同じ授業をするので、指導案はそれとして作り、各クラスに合わせて質問と誘導、声かけ、演習量を調節しないとかなり大変なことになる。

**L** ・「覚悟」

- ・学校で取り扱っている教科書を取り寄せて、指導範囲を指導教諭に尋ねておいて教材研究をしておく。指導案等を使っておくとなお良い。名簿をお借りすることができるのなら借りておいて名前を覚えておく。
- ・教員の朝は早いので早く起きられるようにしておく。また、風邪など引かぬように、健康維持を心がけておく。
- ・様々な部活動に参加できるように、（指導できるように）準備しておく子どもたちとのコミュニケーションの場をつくることができる。

湘南ひらつかキャンパス 教職課程免許取得者及び教職経験者数(1992～2015年度)

2016.9.1

卒業年度	経営学部		理学部								合計		
	国際経営学科		数理・物理学科		情報科学科		化学科		生物科学科		卒業者数	経験者数	%
	卒業者数	経験者数	卒業者数	経験者数	卒業者数	経験者数	卒業者数	経験者数	卒業者数	経験者数			
1992 (H4)	8	1	—	—	2	1	6	0	0	0	16	2	13%
1993 (H5)	7	2	—	—	2	0	9	1	5	0	23	3	13%
1994 (H6)	4	1	—	—	7	4	15	4	10	5	36	14	39%
1995 (H7)	7	2	—	—	6	2	13	4	6	1	32	9	28%
1996 (H8)	3	1	—	—	6	2	22	8	17	9	48	20	42%
1997 (H9)	6	1	—	—	9	4	19	2	19	7	53	14	26%
1998 (H10)	5	0	—	—	11	3	17	4	11	4	44	11	25%
1999 (H11)	7	3	—	—	9	4	16	7	11	6	43	20	47%
2000 (H12)	9	3	—	—	4	1	15	8	7	4	35	16	46%
2001 (H13)	3	2	—	—	8	6	14	5	8	1	33	14	42%
2002 (H14)	8	3	—	—	8	4	12	3	7	2	35	12	34%
2003 (H15)	13	2	—	—	7	4	9	7	4	1	33	14	42%
2004 (H16)	17	4	—	—	22	9	14	7	18	2	71	22	31%
2005 (H17)	32	5	—	—	23	7	16	7	19	11	90	30	33%
2006 (H18)	24	3	—	—	16	3	21	4	22	6	83	16	19%
2007 (H19)	20	7	—	—	9	3	16	8	20	7	65	25	38%
2008 (H20)	8	2	—	—	13	9	5	3	6	4	32	18	56%
2009 (H21)	9	4	—	—	8	7	11	11	13	8	41	30	73%
2010 (H22)	1	0	—	—	10	7	9	6	7	4	27	17	63%
2011 (H23)	9	4	—	—	14	10	10	8	5	5	38	27	71%
2012 (H24)	1	1	—	—	12	10	8	5	7	6	28	22	79%
2013 (H25)	5	3	—	—	19	14	13	7	3	2	40	26	65%
2014 (H26)	0	0	—	—	16	12	8	3	7	1	31	16	52%
2015 (H27)	3	1	13	9	1	1	7	3	1	0	25	14	56%
合計	209	55	13	9	242	127	305	125	233	96	1002	398	40%
%	26%		69%		52%		41%		41%		40%		

\* 経験者数には、正規教員、臨時的任用職員、非常勤職員(講師)を含む。

\* 赴任先の学校種は、小学校、中学校、高等学校を含む。

\* 経験者数は、資格教育課程支援室(旧 教職課程指導室)に本人から連絡のあった数を示す。

\* 本人から連絡のあった時点でデータを更新している。